

# 白山地域で保護され死亡したイヌワシの幼鳥

上馬 康生 石川県白山自然保護センター  
堂前 弘志 いしかわ動物園

## HOSPITALIZATION AND DEATH OF A JUVENILE GOLDEN EAGLE IN MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Nature Conservation Center, Ishikawa*  
Hiroshi DOUMAE, *Ishikawa Zoo*

### はじめに

イヌワシは石川県内では1960年に小松市で捕獲された記録があるが(上馬, 1980), その後, 生きたイヌワシが捕獲されたり保護されたりした記録はなかった。2005年, 白山市中宮地内においてイヌワシの幼鳥を保護収容したが, その後, 死亡したので報告する。なお, 死体解剖に際し協力いただいた大倉剥製の大倉和男氏, いしかわ動物園の桐原陽子氏, また羽毛からの性別検査をしていただいた明治大学の太田昭彦氏にお礼申し上げます。

### 保護に至る経緯

2005年7月5日午前10時に, 白山スーパー林道利用者から, イヌワシの若鳥と思われる個体が林道上にいたとの連絡が入り現場へ行くと, 10時32分, 白山市中宮の白山スーパー林道中宮料金所から約150m入ったところで, 道路谷側のガードロープの下に立っているイヌワシを発見。幼鳥で, 近づくと羽ばたいて逃げるが飛び立てない状態で, 道路上を約10m移動し, 路肩の草地へ少し下りていた。近くで観察すると両足の爪が3~4本欠損していること, その一部から出血していること, 道路にいたと交通事故に遭遇する危険が高いことなどから保護収容が適当と判断し, 10時45分に保護した。両足を紐で縛り, 翼をたたんで全体をレインウエアで覆い隠し, 片手で両足をつかみ身体を抱いた状態で, いしかわ動物園動物病院へ12時10分に運搬・収容した。

### 外貌所見と治療内容

紐を解き診察台にイヌワシを置くと, 暴れることなく静かに立っていた。体重を計測すると2.46kgで非常に痩せており, 全身状態から脱水顕著であることが判明。左足の第2趾及び第4趾, 右足の第1趾及び第4趾の爪に欠損があり, 一部に出血がみられた。また尾羽の基部にハエのウジが多数寄生しており, 一部皮膚が欠損していた。栄養輸液剤, 抗菌剤などを投与し, 爪の欠損部の消毒, 尾羽の基部のウジの除去及び患部の保護を行い, 保温器内で飼育管理した。7月5日18時30分マウス2匹とヒヨコ1羽の切り身を給餌すると食べた。翌日からの飼育管理状況は表1のとおりである。

### 身体計測値と死亡原因

この個体は保護から7日後の7月12日朝, 死亡が確認された。身体計測値は以下のものであった。

体重: 2.50kg (死亡時)

体長: 830mm

翼長: 586mm (左), 588mm (右)

翼開長: 1882mm

翼幅: 21.5mm (左), 20.5mm (右)

尾長: 396mm

跗蹠長: 125mm (左), 125mm (右)

嘴峰長: 38.5mm (蠟膜なし), 49.0mm (蠟膜あり)

第1趾爪長: 41.0mm (左), 21.0mm (右・欠損)

第2趾爪長: 15.0mm (左・欠損), 32.1mm (右)

表1 保護されたイヌワシ幼鳥の飼育管理状況

年月日	体の状態	処置	給餌
2005.7.5	・削瘦および脱水顕著 ・計4趾の爪欠損 ・尾羽の基部にハエのウジ多数寄生し、一部皮膚欠損	・輸液、抗菌剤などの投与 ・爪欠損部の消毒 ・ハエウジ除去し、消毒および患部保護	・夕、マウス2匹、ヒヨコ1羽の切り身を食する。動くものに反応
2005.7.6	・マウス1匹嘔吐 ・昨日よりも動き低下か？ ・尾羽基部の生存ハエウジいない 患部乾燥し良好に見える ・排糞+	・輸液、抗菌剤などの投与 ・爪欠損部の消毒	・食べない
2005.7.7	・顔つき悪くない。嘔吐なし。反応は上昇傾向のように見える ・尾羽基部の患部良好	・前日同治療	・朝、食前の体重2.30kgと低下 ・マウスの切り身よく食べる。馬肉切り身も食べる ・食後の体重2.42kg
2005.7.8	・食欲上昇、排糞+	・輸液量減らす	・食前の体重2.32kg、食後2.52kg
2005.7.9	・食欲+、両翼下垂ぎみ	・前日同治療	・食前の体重2.50kg。食後測定せず
2005.7.10	・食欲減退、動作緩慢、やや呼吸粗い	・採血(ヘマトクリット値、総蛋白、アルブミン低下) ・輸液量および回数増やす	・食前の体重2.48kg。マウス切り身数切れ食すのみ
2005.7.11	・頭部下垂、閉眼、開口呼吸	・前日より輸液量および回数増やす	・まったく食べず
2005.7.12	・朝、死亡確認。体重2.50kg		

第3趾爪長：24.7mm(左)、27.5mm(右)

第4趾爪長：18.4mm(左・欠損)、6.05mm(右・欠損)

2～4趾間長：99.5mm(左)、84.4mm(右)

なお、外傷としては、趾、尾羽基部の損傷のほか、足の関節部の表面にも傷跡があった。解剖所見としては、削瘦顕著で、筋肉の退色(貧血)、両肺のうっ血、皮下における輸液剤の未吸収などが明らかとなり、胃内容物として、給餌用の自分で食べたヒヨコの羽毛が多く入っていた。腸は全体に萎縮しており細く、線虫および条虫が合わせて7匹、胃から腸の内部に見つかった。また左足の関節部に外傷からくる膿が見つかった。

治療経過と解剖所見から、衰弱死と考えられた。なお採取した羽毛の毛根細胞のDNA鑑定により性別は雌と判明した。死亡の直接の原因は衰弱によるものと考えられるが、保護経緯などから、このイヌワシは巣立って1か月以内と考えられ、十分な飛行能力がついておらず、林道付近に降りてから、親鳥による給餌がなかった可能性がある。保護収容した時の体重から、かなり長い間何も食べていないと思

われた。この時期は梅雨の最中で、6月27日から保護した7月5日までは雨天が多く、特に6月30日～7月2日には石川県加賀南部地域に大雨洪水警報が出て、白山スーパー林道が通行止めになっていたこともあり、親鳥が餌を取れなかった可能性が高い。また、爪の欠損、尾羽基部の損傷及び足の関節部の化膿は、林道のアスファルト舗装の路面を何度も羽ばたいて移動していたことが原因と考えられる。

### おわりに

イヌワシを、もう少し早い時期に発見でき適切な対応ができておれば死亡させずに済んだ可能性があり、残念であった。また、全国のイヌワシが生息している地域の道路に、今回のように幼鳥が舞い降りることは今後もあると考えられるので、特に巣立ちから1か月くらい(白山地域では6～7月ころ)は、その存在に注意する必要があると考える。

### 文献

上馬康生(1980)石川県におけるイヌワシの分布および個体数。石川県白山自然保護センター研究報告, 6, 89-102.